

第1学年道徳科学習指導案

平成27年5月27日(水) 第5校時
昭島市立武蔵野小学校 第1学年1組
男子14名 女子16名 計30名
指導者 田中 芳子

児童のよさを伸ばす道徳授業を目指して

1 主題名 どこでやめるのか A 節度、節制

教材名 かぼちゃのつる (大蔵宏之 作『小学校道徳の指導資料 第三集(第一学年)』をもとに一部改作)

2 主題設定の理由(指導観)

(1) ねらいとする道徳的価値について(価値観)

基本的な生活習慣を身に付け、節度のある生活ができる児童を育てようとする内容項目である。

人は本来、「よりよく生きようとする力」をもっている。その力を引き出し、充実した日々を過ごすためには、基本的な生活習慣が身に付いた、節度ある生活が基盤になる。なぜなら、気持ちのよい生活を送ってこそ、「自分をさらによりよくしたい」という活力が湧いてくるからである。不安定な環境や生活が続けば、人は心と体の健康を損ない、本来持っている力が発揮されず、生き生きと生活することができないだろう。

基本的な生活習慣とは、具体的に「健康や安全に気を付けること」、「物や金銭を大切にすること」、「身の回りを整えること」、「わがままをしないこと」、「規則正しい生活をする事」などである。児童がこれらの生活習慣を身に付けるためには、日常の生活指導を中心に、継続的に積み重ねることが大切である。

しかし、さらに重要なのは、「なぜそうすることがいいのか」、「なぜそうしてはいけないのか」と自分で考えて判断し、行動する力を身に付けることだと考える。「注意されたから、そうする」という他律的な思考だけでは、児童の主体性のある自己の形成につながらないからである。

児童が今後の人生をよりよく生きるためには、まず児童自身が、「わがままをしないで規則正しい生活をする事」が、自分にとって大切であり、そのような生活が気持ちがいい」と気付くことが大切である。道徳の時間を要として、学校における様々な場面で、これまでの自分の生活を見つめ直す機会を設けていきたい。また道徳の時間を一つのきっかけとして、今後待ち受ける様々な状況においても、「これでいいのかな」と自分自身に問い掛け、適切に判断し、行動しようとする心情を育てていきたい。

(2) 児童の実態について(児童観)

この時期の児童は、教師や大人の言うことを素直に聞き、それが正しいと信じ、進んで実行しようとすることが多い。入学してもうすぐ2か月が経とうとしている本学級の児童も、教師や大人に教えられたことをきちんと守って、気持ちよく生活しようという気持ちにあふれている。

児童にとって、学校での生活は新しく経験することばかりであり、楽しさのあまり、ついついまわりが見えずにやり過ぎてしまうことがある。例えば、授業開始時刻になってもお絵かきを続けてしまったり、おしゃべりに夢中になって給食を食べるのが遅くなってしまったりということである。個人面談での聞き取りからは、家庭において、遊びやテレビ、ゲームがなかなかやめられない実態も見えてきた。しばしば行き過ぎた行動をしてしまう児童であるが、まわりから受けた注意を素直に聞き入れ、行動を改め、よりよく生活しようとして努力している。

児童には、今後も「よりよい生活を送りたい」という意欲を持ち続けてほしい。そのためには、他者の判断ではなく、自分自身で「このままでいいのか」、「その後どうなるか」と心を留め、よく考えて判断し、節度のある生活をしようとする力を培うことが大事であると考えられる。

本時の指導を通して、児童が、これまでの自分に行き過ぎた行動がなかったかを振り返るとともに、行き過ぎた行動を続けたらどうなるか、その後のことを考えて行動していこうとする心情を育みたい。

<抽出児童>

- C1** 落ち着いて学校生活を送っている。まわりの様子を見て、今何をすべきか、判断できることが多い。「こうあるべき」との思いが強いので、展開の後段で、素直に自分の生活を振り返ることができるかが勝負となる。友達のエピソードを聞きながら、「ぼくもそうだな」と共感したり、「みんなも同じようなことがあるんだな」と安心したりすることを通して、素直に自己の振り返りができるようにしたい。
- C24** 楽しいことが優先されがちであり、学校生活で、ついつい行動が行き過ぎてしまうことがある。注意すると素直に反省して、次に生かそうとする姿勢が見られる。個人面談からは、末っ子であることも関係しているのか、自分のしたいように過ごしている様子がうかがえた。動作化や劇化が大好きで、伸びやかに表現することができるので、2つの発問で、かぼちゃの気持ちになりさせたい。そして中心発問では、自分の行き過ぎた行動を振り返るかぼちゃの気持ちについて、十分に共感的な理解ができるようにしたい。
- C30** 家庭の事情から、保育園・幼稚園に行っておらず、小学校が初めての集団生活となる。入学当初は、集団での過ごし方に戸惑い、自分のペースを優先させる行動や、その場の思いつきによる行動が多くあった。本人は学校生活を楽しんでいる。まわりの友達の様子を真似したり、教師の指導を素直に実践しようとしていたりして、気ままな行動はぐんと減った。本時では、なぜそうしてはいけないのか、日頃の自分の行動を考えるきっかけとなるよう、中心発問で、かぼちゃの気持ちを共感的に理解させたい。
- C3** 道徳の時間に関わらず、授業に対する関心がなかなか高まっていかない。心に浮かんだことや自分の思いを言葉にすることを苦手と感じている様子もうかがえる。まずは、資料提示で、資料の世界に浸らせることを目標にする。楽しいことには積極的なので、動作化で気持ちがのっている様子が見られたら、かぼちゃの気持ちをインタビューする。発言できた時は大いにほめ、道徳に対する苦手意識や授業中の発言に対する抵抗感を少しでも減らせるようにしたい。

(3) 教材について (教材観)

みつばち、すいか、こいぬの忠告を聞かず、自分の思うままにぐんぐんつるを伸ばすかぼちゃが、最後は車によってつるを切られて涙を流して泣くという内容である。

本教材は、1年生の児童にとって、わかりやすい内容であるとともに、次がどうなるか、臨場感のある展開で構成されている。児童は本教材を通して、かぼちゃが自身の行き過ぎた行動を振り返り、反省する気持ちに十分共感し、節度のある生活をしようという気持ちをもつことができると思い、本教材を選択した。

<教材分析>

教材の流れ	かぼちゃの内面	考えられる発問
①物語の導入 つるをぐんぐん伸ばす かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちいいな ・もっともっと伸ばすぞ ・ぼくって、すごいだろう ・あっちまでいきたいな ・どこまでいけるかな ・どんどん伸びて、楽しいな 	<p>【発問①】</p> <p>○ぐんぐんつるを伸ばすかぼちゃは、どんな気持ちだったか。</p> <p>○かぼちゃは、どんな顔でつるを伸ばしていたか。</p>
②畑の外へつるを伸ばす かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの畑じゃ、せまいなあ ・行きたいところに伸びよう ・自分の場所を増やそう 	
③話しかけてくるみつばち	<ul style="list-style-type: none"> ・みつばちさん、何しにきたのかな ・道にまで広がるぼくのつる、すごいでしょ ・ぼくのつるを見てよ 	

④みつばちの忠告を聞かず、伸ばすことをやめな いかぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなように伸びたい ・人が通っていないのだから、いいんじゃない ・もっともっと伸ばしたいんだ 	
⑤すいか畑へつるを伸ば すかぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん伸ばしてやる ・やった、みちをこえることができた ・こっちの方が栄養がありそうだ 	
⑥困った顔で話すすいか	<ul style="list-style-type: none"> ・ここはすいかさんの畑なんだな ・話しかけてくるのは誰だろう ・こまった顔をしているのは何でだろう 	
⑦すいかの願いを聞き入 れず、すいかの畑につる をぐんぐん伸ばすかぼ ちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・もっともっと伸ばすぞ ・そんなの知ったこっちゃない ・ぼくはこっちへ行きたいんだから、じゃましないで ・そちらの畑は広いんだから、いいじゃないか ・すいかさんは、けちだな 	
⑧話しかけてくるこいぬ	<ul style="list-style-type: none"> ・誰だ、ぼくのじゃまをするのは ・どこに伸びてもいいじゃないか ・誰が困るのかわからない 	
⑨話しかけてきたこいぬ に 言葉を返すかぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、もっと伸びたいんだ ・べつに、いいじゃないか ・ぼくの勝手だろう ・ぼくのじゃまをするな ・そっちこそ、よけて行け ・またいで通ればいいじゃないか ・うるさいな ・もう、ほうっておいてよ 	<p>【発問②】</p> <p>○こいぬに話しかけられたかぼちゃは、どんな言葉を返したか。</p> <p>○こいぬに話しかけられたかぼちゃは、どんな気持ちだったか。</p> <p>○こいぬに話しかけられたかぼちゃは、どんな顔をしていたか。</p>
⑩こいぬにつるを ふみつけられるかぼち ゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・お前なんかにおふまれたって、平気だい ・全然痛くないぞ ・こいぬはおこりっぼいなあ 	
⑪近づく車	<ul style="list-style-type: none"> ・あ、車だ ・あぶないかもしれない ・どうしよう 	
⑫つるが切れてしまった かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・うわあ ・やっぱり切れてしまった ・信じられない 	
⑬ぼろぼろ、ぼろぼろ、 涙を流して泣くかぼち ゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの言うことを聞いていればよかった ・すいかの畑にまで、つるを伸ばさなければよかった ・痛い思いをしたのは、自分のせいだ 	<p>【中心発問】</p> <p>○つるを切られ、ぼろぼろ、ぼろぼろ、涙</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは、本当にこれでいいのか、考えないといけないな ・すいかさんに謝らないといけないな ・痛いよう ・ぼくのつるを切った車を許せない 	<p>をこぼして泣いているかぼちゃは、心の中でどんなことを考えたか。</p> <p>○かぼちゃは次の日から、どんなふうに過ごしたのだろうか。</p> <p>○かぼちゃは、みつばちやすいか、こいぬにどんなことを話したのだろうか。</p>
--	--	---

以上の教材分析から、中心発問の場面を⑬にした。⑬は、それまでとかぼちゃの心情が大きく変化する場面である。まわりの忠告を聞かず、思うままに行動していたかぼちゃは、つるが切れたことで、自分の行き過ぎた行動を振り返り、後悔や反省の念を抱く。自己の行いを振り返るかぼちゃの気持ちに十分共感させたい。

また、中心発問を支える基本発問場面として、①と⑨を選んだ。①では、つるを伸ばすことを気持ちよく感じているかぼちゃの気持ちに気付かせたい。⑨では、こいぬの忠告に対して、口答えをし、全く自分の行動をやめようとしなにかぼちゃの気持ちに気付かせたい。かぼちゃに忠告をするのは、みつばちとすいかとこいぬであるが、それぞれとのやりとりの中で、かぼちゃが一番調子に乗って、わがままな発言をするのはこいぬに対してであると感じたので、この場面を選択した。

3 研究主題についての捉え

道徳科の時間は、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める時間である。本校の研究主題は、この道徳科の目標に大きくかかわっていると見える。

では、研究主題にある「自らを見つめ、自らに問い掛ける」とは、道徳の時間においてどのような児童の姿をいうのか、1学年としての捉えを以下に示す。

1学年が目指す「自らを見つめ、自らに問い掛ける児童」の姿

- ①自分の心の動きを素直に言葉にする児童
- ②これまでの自分はどうか、素直に振り返ることができる児童
- ③これからこうしていきたい（よりよくなりたい）という前向きな志向をもつ児童

①自分の心の動きを素直に言葉にする児童

道徳の時間は、本時で6時間目である。児童には、初めての道徳の時間から「道徳に、間違いはないよ。」「心に浮かんだことを一生懸命、言葉にして発表してね。」「でも、ふざけるのはいけません。」と話してきた。教師の引き出したい答えにだけ、反応するのではなく、どの児童の言葉も共感的に受け止めていきたい。教師の姿勢が、道徳の時間に対する児童の素直な態度を養うと考える。

②これまでの自分はどうか、素直に振り返ることができる児童

本時では、自分自身が「その後どうなるか」、「どこでやめるのがいいか」を考えて行動する気持ちを育てることを目標としている。これまでの日常生活の場面でも、「本当にそれでいいのか」と児童に問い、児童自身がどうすればよいのかを考えて、判断し、行動する習慣を身に付けられるように指導してきた。その場の行動だけでなく、これまでの生活についても同様に、自分を振り返る力を身に付けてほしい。そのために、道徳の時間だけではなく、帰りの会や他の教科、行事においても、じっくりと振り返りをする時間を確保し、自分を見つめ、がんばった自分、直したい自分について考える習慣が身に付くようにしていく。

③これからこうしていきたい（よりよくなりたい）という前向きな志向をもつ児童

がんばりたい思いにあふれている1年生である。この意欲を持続し、さらに高めていけるように、よい行い

はおおいにほめ、失敗は温かく励ましなが、1年生らしくのびのびと生活できるように心を配っていく。

研究主題に迫るための手立ては、次項に示す。なお、この手立ては、「心に響く資料を選定し、児童が自分の生活や体験を振り返り自分について考えることができる授業を行うことによって、よりよく生きようとする児童を育てることができるだろう。」という研究仮説をもとに設定したものである。

4 研究主題に迫る手立て

(1) 児童を教材の世界に引き込むための教材提示の工夫

ホワイトボード全面を舞台として、お話の世界をその場で体感できるような教材提示を行う。かぼちゃは、モールとマグネットを使って表情を変えられるようにして、児童がかぼちゃの心情の移り変わりを視覚でも感じ取れるようにする。また、どの登場人物がどのせりふを話しているかをわかりやすくするため、T2・T3と役割を分担し、教材提示を行う。

(2) 自己を振り返るための展開の後段の工夫と児童の学習状況の見取り

教材の世界から、児童自身のことについての振り返りがスムーズにできるように、発問を「みなさんも、かぼちゃさんのように、自分のしたいことをやり過ぎて失敗してしまったことはありますか。学校やおうちでの自分のことを振り返ってみましょう。」とした。「かぼちゃさんのように」と教材とのつながりを残しつつ、導入とも関連させ、時間を十分に確保することで、じっくりと自己の振り返りができるようにした。

1年生の今の時期の児童は、まだひらがなを学習している段階であり、自己の振り返りを文に残すことができない。そこで、展開の後段の発問に対して、思い浮かんだことがあった児童のうち、教師に話してもいいという児童については、個別に聞き取りを行うことにした。自己の振り返り後、いくつかのエピソードについては、名前を伏せて全体の場で教師が紹介する。また、エピソードとともに、「～すると、何がいけないのだろうね」、「～し過ぎるとどんなことが困るのだろうね」と全体に問うようにする。そうすることで、叱られるからやめるのではなく、「なぜそうしてはいけないか」を児童自身が考えるきっかけとなるようにしたい。授業中に全ての児童の話聞くことはできないが、授業後（翌日）も時間をとり、中心発問で発言ができなかった児童を中心に聞き取りを行い、児童の内面を見取るようにする。

(3) 楽しい道徳の時間にする工夫

道徳の授業が始まって間もない1年生である。3回目の道徳の時間の終了後、「先生、わたし、道徳好き。」と話しかけてくれた児童がいた。道徳の時間を充実したものにするためには、児童にとって道徳が楽しい時間であることが重要である。そこで、1年生の特性に応じて、動作化を取り入れたり、かぼちゃの絵を使った小道具を使用したりすることや友達と発表を聞き合うことを通して、楽しく学習できるようにする。



5 本時の指導

(1) 本時のねらい

ぼろぼろ、ぼろぼろ、涙をこぼして泣きながら、自分の行き過ぎた行動について振り返るかぼちゃの気持

ちを共感的に理解することを通して、わがままをしないで生活をしようとする心情を育てる。

(2) 本時の学習指導過程

学習活動	主な発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点
1 普段の生活で、つい ついやり過ぎてしま うことを思い起こす。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 楽しくて、楽しくて、いつまでもやって いたいことはありますか。それは、どんな ことですか。 </div> <p>・あそび ・おえかき ・テレビ ・ゲーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が普段の生活を思い起こし、ねらいとする道徳的価値について意識を高められるようにする。
2 「かぼちやの つる」 の話を視聴し、かぼち やの気持ちについて 考える。 ① ぐんぐん、つるを伸 ばすかぼちやの気 持ちを考える。 ② こいぬに話しかけ られた時のかぼち やの気持ちを考え る。 ③ つるを切られて、涙 を流しながら、自分 のした行動につ いて振り返るかぼち やの気持ちを考え る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> かぼちやさん。ぐんぐんつるをのばして いる今、どんな気持ちですか。 </div> <p>・もっともっと伸ばすぞ ・気持ちいいな ・楽しい ・ぼくって、すごいだろう ・あっちまでいきたいな</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> こいぬに話しかけられたかぼちや、こ いぬにどんな言葉を返したろうか。 </div> <p>・べつに、いいじゃないか ・だって楽しいんだもん ・ぼくは、もっと伸びたいんだ ・へいき、へいき ・そっちこそ、よけて行け ・またいで通ればいいじゃないか ・うるさいな ・もう、ほうっておいてよ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> つるを切られ、ぼろぼろ、ぼろぼろ、涙 をこぼして泣いているかぼちや、心の中 でどんなことを思ったか。 (中心発問) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・かぼちやの気持ちを考えながら、聞くよう指示する。 ・ホワイトボード全面をシアターとして、児童が教材の世界に入り込めるようにする。 ・T2・T3と協力して行う。 ・かぼちやの気持ちになって、お話するように発表することを伝える。 ・インタビュー形式で聞く。 ・つるを伸ばしていく様子（少しだけ伸ばしている時、もう少し長く伸ばしている時、ぐんぐん伸ばしている時の様子）を動作化し、自分の思い通りにつるを伸ばして、ごきげんなかぼちやの気持ちに気付くことができるようにする。 ・発問の前に、みつばち、すいか、こいぬの言葉を掲示する。 ・発言する人には、かぼちやの絵を持たせる。 ・自分が思い通りにしていたことに対し、次々と忠告を受けたことに腹を立て、まわりの迷惑やその後のことを考えずにつるを伸ばし続けるかぼちやの気持ちに気付くことができるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの言うことを聞いていればよかった ・すいかの畑にまで、つるを伸ばさなければよかった ・痛い思いをしたのは、自分のせいだ ・これからは、本当にこれでいいのか、考えないといけないな ・もっと伸びたかった ・すいかさんに謝らないといけないな ・痛いよう ・ぼくのつるを切った車を許せない 	<p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぼちゃは、次の日から、どんなふうにご経過しているだろうか。 ・自分の行動を振り返り、反省を今後を生かすことの大切さに気付くことができるようにする。 <p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・左のような発言があった場合、「痛くなってしまったのは、誰のせいなのだろう」、「車は、通ってはいけなかったのかな」と聞き、感情やまわりのことではなく、かぼちゃが自身の行動について振り返ることができるようにする。
3 その後のことを考えずに、行動してしまったときのことを振り返る。	みなさんも、かぼちゃさんのように、自分のしたいことをやり過ぎて失敗してしまったことはありますか。学校やおうちでの自分のことを振り返ってみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分を振り返り、生活を見直すきっかけとなるようにする。 ・何か心に思い浮かんだ児童は、静かに前に出て座るように指示する。 ・教師に話してもよいという児童は、個別に内容を伝えるように言う。 ・名前を伏せて、児童のエピソードを伝える。
4 教師の説話を聞く。	・教師の説話を聞く。	・自身の失敗談を語り、その後やまわりのことを考えて行動していこうとする意欲を高める。

(3) 評価の視点

- ・ぼろぼろ、ぼろぼろ、涙をこぼして泣きながら、自分の行き過ぎた行動について振り返るかぼちゃの気持ちを共感的に考えているか。(③の中心発問に対する発言)
- ・わがままをしないで生活をしようとする心情が芽生えたか。(展開後段の発言・授業中やその後の聞き取り)

7 板書計画



8 授業記録 (T:教師、C:児童)

(手遊び、5になるじゃんけんで、心をほぐす)

(始まりのあいさつ)

導入 (13:45~)

T: みなさん、楽しくて楽しくて、いつまでも、やっていたいことってありますか。

C: (口々に) あるー!

T: ちょっと考えてみよう。

(しばらく間をおく) 楽しくて楽しくて、
いつまでも、やっていたいこと。何かありますか。

C18: ○○くんと○○くんと、ずっと遊んでいたい。

T: いいお友達がいるんですね。すてきね。

C27: タイヤで遊んでいたい。

C13: 芝生でずっと寝ていたい。

T: みなさんもやったことがありますか。

C: (一斉に) ある!

T: とっても気持ちがいいですね。他にはありますか。

C10: 勉強ずっとやってたい。

T: すごい! 今日は、自分のしたいことをやり過ぎて

ちょっと失敗してしまったかぼちゃさんのお話を聞いてもらいます。

C: お~!

T: 題名は「かぼちゃのつる」です。

C: (「知ってる!」 笑う などの反応)

T: かぼちゃさんは、校庭にある5年生が育てているゴーヤのように、つるをぐんぐん伸ばす植物です。

1年生の先生3人で、お話をしますから、みなさんは、かぼちゃさんの気持ちになって、一生懸命聞いてください。



やりすぎてしっばいしてしまったこと

教材提示 (13:50~)

C: (「えーっ!」、「わー!」、「あ~!」、「かわいそう」 など)

T: 今から、かぼちゃさんの気持ちを、みんなで考えていきます。静かに席へ戻ってください。

C: (席へ戻る)

展開(前段) (13:56~)

T: お話の始めの方へ戻ります。これから、かぼちゃさんの気持ちを考えていきます。机は畑、みなさんは、かぼちゃさんです。さあ、(前の) かぼちゃさんと一緒に、つるをちょびっと伸ばしてみましよう。

C: (手と手を合わせて、つるを伸ばす動作)

T: どう? もっと伸ばしたい?

C: (一斉に) うん!

T: もう少し伸ばしてみようか。どう?

C: (口々に) 「もっと伸ばしたい!」、「によきによき」 など

T: では、もっと、ぐんぐん伸ばしてみよう! (大きく動く)

あっちへ、こっちへ…。

<発問①> (13:57~)

ぐんぐんつるを伸ばすかぼちゃさん。今、どんな気持ちですか。

インタビューしてみたいと思います。

C21: うれしい。

C7: (マイクを向けると黙る。)

T: 考えておいてね。



C9: 楽しい気持ち。
C12: おもしろい。
C2: すごくうれしい気持ち。
C16: すごーい、もっともっともっとぐんぐん伸ばしたい。
C30: 伸びたらうれしい気持ち。
C13: もっと伸ばしたい。
C12: ぼくは、長いところ (おそらく「遠いところ」の意味) へ伸びるんだ。
C14: 気持ちいい。
C7: やったー!
C10: うれしい。
T: (切り上げようとしたら)
C8: ぼくは? (「ぼくにも聞いて!」の意味)
T: では、最後にどうぞ。
C8: 地球にどんどん伸びていく。
T: 今から、みんなが発表してくれたことを書きます。みなさんは見ていてください。足りなかったら教えてね。
C: (教師が書く内容を見る。)
T: こんな感じかな。(どうしても発表したいC18 挙手→指名)
C18: 楽しい。
T: ここに書いているからいい?
C18: うん。
T: こんな気持ちでつるを伸ばすかぼちゃんに、話しかけてきた人 (動物・生き物) がいたよね。
C: みつばち。
T: そう。みつばちさん。みつばちさんは、「そこは、人の通る道ですよ。」と言いました。
次は、誰だったかな?
C: こいぬさん。
T: おいしい!
C: すいかさんだ!
T: そう。すいかさんは、「ここは、わたしの畑だから、入ってこないでくださいよ。」と言いました。
C12: でも平気な顔してた。
T: そうだね。

次は、こいぬさん。こいぬさんは、「こんなところに伸びては困るよ。ここは、みんなの通る道だよ。」と話しかけました。

<発問②> (14:00~)

こいぬに「こんなところに伸びては困るよ」と話しかけられたかぼちゃんは、どんなことをこいぬに言ったと思いますか。

C: (挙手→担任と目が合ったら手を下ろす。)
C8: 知らないよ。
T: それを一生懸命考えるのよ。
発表する人には、かぼちゃを持ってもらいます。先生こいぬに言葉を返してくださいね。
T: こんなところに伸びては困るよ。(毎回、担任がセリフを言ってから児童の発言)
C1: 平気、平気。
C5: いいや、ぼくは、もっと伸びるのが幸せなんだ。
C9: 大丈夫、大丈夫。
C24: 平気、平気。ぼくなら大丈夫。
T: 「平気、平気」以外にもあるかな。
C15: もっともっとぼくは伸びたいから・・・だからもっと伸ばす。
C17: もっと長くなって成長するんだもん。

C25: ぼくは、このまま伸びていくのが夢なんだ。
C30: 平気、平気。もっともっともっと伸びたいんだ。
C18: だって楽しいんだもん。
C12: うるさい、うるさい。ぼくはもっと伸びる！
C27: だっておもしろいんだもん。だからいいじゃん。まだやりたい。
C26: まだずっとこのまま伸びていきたいんだもん。
C2: 宇宙まで伸ばしたいよ・・・伸ばしたいから、もう話はやめて。
T: これもみんなの発表を書くから、待っていてね。
C: (教師が書く内容を見る。)
T: このあとどうなったかな。C3さん、どうなったっけ？
C13: ...。
T: わかる人、教えてあげて。(挙手) C23さん、教えて。
C23: 車に引かれて、切れちゃった。
T: C3さん、思い出した？
C3: うん。(うなずく。)
T: そうしたら・・・
C: (「うーん」と泣く真似。)
C10: 静かにして。
T: つるを切られたかぼちゃは、ぼろぼろ、ぼろぼろ、涙を流して泣いたんだよね。

<中心発問> (14:09~)

ぼろぼろ、ぼろぼろ、涙を流している時、かぼちゃは心の中で、どんなことを思っていたらうね。

C: (手を挙げる。)
T: 少し考えて。(個別に声をかける。しばらく間をおいて) 思い浮かんだ人、手を挙げてね。
C11: もっと伸びたかったんだ。
C1: 最悪だー。
T: 何が？
C1: 切れたのが・・・。
C9: 夢だったからね。
T: そうか。
C5: せっかくあそこまで伸びたのに・・・。
C: ある! (「かぼちゃにその気持ちがある」というの意味)
C22: そんなに伸ばさなけりゃ、よかった。
T: そんなにって、どういう意味？もう少し詳しく教えて。
C22: いっぱい伸ばさなきゃよかった。
C23: もっといっぱい伸びたかったよー!
C24: もっといっぱい伸ばしたかったのに・・・
T: 「のに・・・」何か続きそうですね。続けてみて。
C20: 付け足して。
C24: 伸びたかったのに、何で切れちゃうんだよ～。
T: なんで切れてしまったのかな。
C20: それはね、車がブーン、ドシーンってきて、引かれちゃったから。
T: 悪いのは、車なのかな。
C: (口々に「かぼちゃ」「車」などつぶやく。)
C13: 違うよ。かぼちゃ。
T: どういうこと？C13さん、教えて。
C20: 悪いのは車! (つぶやく)
C14: かぼちゃ。だって伸ばしたんだもん。
C13: (悪いのは、) かぼちゃ。自分で伸ばしていったから、車に引かれて・・・



C20: 違うよ、車が悪いんだよ。(つぶやく)
 C12: 車は悪くないし。(つぶやく)
 T: (C12に向かって) どうしてそう思うの?
 C12: 車はただ通っただけだから。
 T: ここは、みんなの通る道だものね。
 C16: そう! いぬさん、言った。
 T: 車は通っていいんだ。(C20の側に行って)
 C20さん、どう?
 C20: ……
 T: あなたは、かぼちゃさんが、かわいそうに思ったんだよね。
 (C20うなづく)
 C14: かぼちゃは、話聞かなかったから…(「悪い」の意味。)
 T: もう少し聞きます。
 C21: みんなの話、聞けばよかった。
 C29: いぬさんに、ごめんなさい言わなくちゃ。
 C6: ……(声が小さくて聞き取れない)
 T: 先生がスピーカーするね。
 C6: 伸びたいよー。
 T: 伸びたいよー。もっと伸びたかったんだよね。
 C2: ぼくのばか、ばか、ばか。
 C16: やっぱり伸ばさなければよかった。ぼくがだめだった。
 C2: (C16の発言に共感して) おれもそういう気持ちになった。
 C7: はちさんと、すいかさんと、こいぬさんの話を正直に(おそらく「素直に」の意味)聞いていれば、
 こんなことにはならなかったのに…。
 C5: ちょっとしか伸ばさなければ、こんなことにはならなかったのに。
 C18: ちょっとしか伸ばさなかったら、よかったな。
 C30: ちょっとしか伸ばさなかったら、車に引かれなかったのに。
 C13: そんなに伸ばさなければ、車に切られなかった。
 C26: もうしないから、許して。
 T: C26さんが、もうしないと発表してくれたけれど、次の日からかぼちゃは、どんなふうに過ごしたかね。
 C12: トンネルにした。
 C5: 横とかに伸ばした。
 T: すいかさんのところへ伸ばしたかな。
 C: (口々に) ううん。
 C14: だって、悪いこと、どうしてかわかったから。
 T: どんなことが悪かったのかね。
 C14: 人の通る道へ行ったこと。
 T: そうだね。書きますね。
 C: (板書を見る。C3: 書いていることを口を動かしてつぶやく)



展 開 (後段) (14:21~)

T: さあ、かぼちゃさんから、自分に戻ります。

<後段の発問> (14:21~)

みなさんも、かぼちゃさんみたいに、自分のしたいことをやり過ぎて、失敗してしまったことはありませんか。

C: (口々に) 「ある!」「あります。」など

T: 音楽が流れている間、学校でのこと、おうちでのことを思い出してください。

T: (思いついたC2に話を聞く。)

(困っている様子のC21に声をかけるが、ないという意味で首をかしげる。)

(C1に声をかける。「ない」という。)

T：自分のおうちでのことや学校でのこと。かぼちゃさんのように失敗してしまったことが思いだせた人は、前にきてください。

C：(15人ほど、すぐに前に来る。)

T：(座ったままの児童に声をかける。)

T：(前にいる児童に)先生にどんなことを思い出したか、話してくれる人いますか。

(担任に話した主な内容)

C24：おうちの壁にマニキュアで落書きして怒られた。

C2：お菓子を食べるのに夢中で、宿題をやるのが遅くなってしまった。

C5：プールに入り過ぎて、風邪をひいてしまった。

C1：学童で遊ぶのが楽しくて、チャイムを守れなかった。

C14：遊びが楽しくて、勉強できなかった。

C30：かぼちゃがかわいそう。(お話の感想、何を考えるかわかっていない。)

C23：ピアノの先生にわがままを言ってしまった。



T：お話を聞かせてくれた人、ありがとう。ある人は、宿題をやるのが面倒臭くなって、お菓子をずっと食べていたら、お家の人に怒られてしまったんだって。お菓子を食べすぎると、何がいけないんだろうね。

C：(口々に)虫歯になっちゃう。

C17：宿題やらなかったら、次の日怒られちゃう。

T：怒られなかったら、いいのかな。

C20：(怒られなくても)ちゃんとやる。

T：ある人は、プールで泳ぐのが、楽しくて楽しくて仕方なくて、入り過ぎて、風邪ひいちゃったんだって。プールに入ったら、泳げるようになるからいいんじゃない? どうしていけないんだろうね。

C2：風邪をひくと、お休みして、皆勤賞が・・・(もらえない)。

C25：学校に来れなくなって、みんなに遅れちゃう。

T：遊ぶのが楽しくて、チャイムを守れなかったという人もいました。なぜいけないのだろうね。

C18：先生に叱られちゃう。

T：先生はなぜ叱るんだろうね。

C23：次の勉強に間に合わないから。

C10：次の勉強ができなくなっちゃうから。

C5：おうちの人も心配する。

T：困るのは、誰なんだろうね。

C14：困るのは、自分。



終末 (14:30~)

T：先生が小学校2年生のときのお話を聞いてください。

(次の日が遠足なのに、雨の中、母親の注意も聞かず、傘もささずに遊んでいたら、風邪をひいて、次の日遠足へ行くことができなかった。台所にあった空っぽのお弁当箱を見て、心がずんとなった時の話をする。) これで終わります。

(終わりのあいさつ 14:33)

授業後 (14:33~14:40 くらいまで)

(話をしたい児童が、前に来て話す。)

C25：ついつい遊び過ぎたこと

C7：フルーツを食べ過ぎてお腹を壊してしまったこと

C11：自転車に乗るのが楽しくて、やめられずに、けがをしてしまったこと

C17：遊び過ぎたこと

C21：ゆっくりし過ぎて、遅刻しそうになったこと など

9 成果と課題

<成 果>

- ・資料提示を工夫したことで、児童を資料の世界に浸らせることができた。
- ・補助発問を用意したことで、本時のねらいから外れることなく、児童が道徳的価値についての理解を深めることができた。
- ・動作化や小道具を使用したことで、児童が登場人物になりきるとともに、楽しみながら自分の思いを表現することができた。

<課 題>

- ・自己の振り返りができない児童への手立てや見取りをどうしていくか。

10 授業までの軌跡

本時までには他の学級で検証授業を行った。その授業を本時にどう生かしたか、悩んだことや気付いたことなどを記す。

(1) あれ？反応がうすいぞ… (第一発問の苦悩)

一回目。2組をお借りして事前授業開始。動作化はいい感じ。「そのまま、第1発問はいけるだろう！」と思いきや・・・、手が挙がらない。道徳の授業に慣れていないからかしら？発問の内容が分かってないのかしら？後日行った、2回目の事前授業（3組）でも、同じような反応。なぜだろう？

2回目の授業を行った放課後、授業を見てくださった分科会の先生にある指摘を受ける。

「かぼちゃって、そんなに悪いの？」

「??？」

どうやら、資料提示の際のかぼちゃのセリフの言い方が、悪すぎる…とのこと。その先生曰く、

「かぼちゃは、つるを伸ばしていただいただけだね。成長したいのだから、つるを伸ばすのは当たり前。迷惑をかけようとして伸ばしているのではないのだから、あの読み方だと、つるを伸ばすこと自体が悪いように聞こえる。だから第1発問で子供たちが『悪いことしているのにいいのかな』という気持ちになって、反応がないのでは。」

とのこと。なるほど！確かにその通り。

実は、この資料、初出では、「(こいぬに対して) いじわるそうに、こたえました。」など、かぼちゃが相手に対して明らかに嫌な態度をとっているのだ。資料分析の段階で、「かぼちゃがつるを伸ばすことは悪くない。考えず、注意を聞かずに伸ばし過ぎたことがいけない。」と考え、自分で原文を改作したことをすっかり忘れていた。いつの間にか、かぼちゃを悪者にして資料提示していたことに気付かせてもらった。本時では、資料提示の読み方を大幅に修正した。(特に「ふん、かまうものか。」「ぼくは、こっちへ伸びたいんだ。」の部分。) 劇的に、児童の反応は変わった。(上記の逐語録参照。)

(2) 「反省」ばかりの反応 (中心発問の苦悩)

中心発問は、いつだって最後まで悩む。ねらいに直接迫るためには、どう発問するか。発問場面は、初めから、かぼちゃがぼろぼろ、ぼろぼろ、涙を流すところと決めていた。発問としては、「つるを切られ、ぼろぼろ、ぼろぼろ、涙をこぼして泣いているかぼちゃは、心の中でどんなことを考えたか。」としていた。

1回目の授業では、反応が「言うことを聞いていればよかった。」という反省の思いばかりで、多様な反応が出ず、あまり話し合いに深まりがでなかった。

2回目の授業の前に、講師の後藤忠先生より、「『考えたか。』でいいか、再検討を！」とのご指導をいただいた。「考えた」では、「心情を共感的に理解する」というねらいに迫れないと考え、「心の中でどう思ったか。」と発問を変えた。

また、後藤先生より、「『痛い』、『車が許せない』といった反応は必ず出る。補助発問を用意しないと、ねらいには迫れない。」とのご指摘をいただいた。そのような発言が出た時は、「痛くなってしまったのは、誰のせいなのだろう」、「車は、通ってはいけなかったのかな」と切り返し、児童がかぼちゃ自身の行動について振り返ることができるようにした。

本時では、資料提示から第1発問、第2発問の流れを受けて、中心発問で多様な発言が見られた。また、「車が悪い」といった反応があった時、補助発問を用意していたことで、担任は焦らず「悪いのは車なのかな。」と児童に問うことができた。初めは「車が悪い」と思っていた児童も、一人を除き(かぼちゃがかawaiiという気持ちから、離れられなかった)、「あ、そうか。かぼちゃが悪いのか。」とかぼちゃの行き過ぎた行動が、いけなかったことに気付くことができた。

「車が悪い」という反応があることを予想し、その反応に対する補助発問を用意していたからこそ、ただの発表で終わらず、1年生なりの話合いができたのだと推測する。「車は、ただ通っただけ」であり、「悪いのは、つるを伸ばし過ぎたかぼちゃ」であることに気付かなければ、「車が悪い」発言に流され、ねらいから離れてしまうところだった。

(3) かつ、書けない…(振り返りの苦悩)

1年生の5月。ひらがな50音のうち、やっと3分の2ほどの学習が終わったところである。自己の振り返りは、当然文章で残すことができない。児童がどんなことを考えたか、書けないからと言って放っておいては、児童の見取りができない。悩んだ結果、授業中と授業後にできるだけ担任が聞き取ることにした。聞き取った内容は記録に残して、今後の指導に役立てる。

本時では、「みなさんもかぼちゃさんみたいに、自分のしたいことをやり過ぎて、失敗してしまったことはありませんか。」と発問し、BGMが流れている間、一人で考え、その後、思い浮かんだ児童から「コの字型」の中央に来るように指示した。座っている児童に声をかけた後、中央に戻り、それぞれ聞き取りをした。

授業後の協議会で、「振り返りができない児童への手立ては、どうするのか」との意見をいただいた。今後は、コの字型の中央スペースを児童同士で思ったことを伝え合う「しゃべり場」とし、担任は、振り返りが難しい児童へ個別に声をかけることにする。

(4) 研究は授業をやったもの勝ち！

「児童のよさをもっと発見したい!」、「道徳を楽しんでほしい!」との願いをもって、研究授業を行った。はじめは「1年生なのに、なぜこんな時期の研究授業を受けてしまったんだろう…」と後悔したこともあった。けれど、終わって改めて思ったのは、研究授業をやってよかったということ。授業はやったもの勝ち。やった人だけが、子供との絆の深まりや達成感、新たな課題の発見の喜びを味わえる。

今回の授業で一番感じたのは、学級経営が基盤であること。今後も、児童が安心して過ごせる居心地のよい学級となるよう、心を配っていく。

2015/5/31 田中 芳子

